

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：32672

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K18589

研究課題名（和文）高齢期におけるセクシャル・マイノリティの介護・福祉サービス利用に関する課題の解明

研究課題名（英文）An elucidation of issues related to the use of nursing care and welfare services for older adults belonging to a sexual minority

研究代表者

北島 洋美（Kitajima, Hiromi）

日本体育大学・体育学部・教授

研究者番号：00614439

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：当事者へのインタビュー調査からは、差別・偏見の経験やサポート体制等の影響が明らかになり、地域社会でのつながりや安心できるフォーマルサービスの構築等の課題が示された。

サービス提供者の対応は、当事者の要望の認識等の影響を受けていた。多くは受容的であったが、一部には当事者に対する理解不足等があることが窺えた。当事者に関する正確な知識を得て、個々のニーズを理解する能力を育成する機会の必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

長らく差別や偏見の恐れに晒されてきた性的マイノリティ高齢者からは、自分たちの経験、感情、要望等が語られることは少なく、サービスを提供する側は、乏しい情報の中で性的マイノリティという存在をひとつにまらめて、そのニーズを想像せざるを得ない状況にあった。本研究では当事者の生の声を聴きながら調査を進めることができ、さらに今まであまり明らかにされてこなかった我が国のサービス提供者の性的マイノリティ利用者に対する意識にも迫ることができた。これらの調査から得られた知見は、当事者が安心して暮らすことができる環境の構築に貢献し今後の研究への示唆となる。

研究成果の概要（英文）：Through interview surveys of older adults belonging to a sexual minority, the influence exerted by their experiences of discrimination, prejudice, and supportive interpersonal relationships was clarified. These results indicate the issues surrounding the building of connections within local communities and the construction of formal services.

Furthermore, the responses of service providers were significantly affected by a recognition of the person's wishes. Many of the staff members were receptive; however, some respondents seemed to have an insufficient understanding of the specific needs of an older adult belonging to a sexual minority. This study suggests the need for opportunities to impart accurate knowledge concerning sexual minorities and to develop an ability to understand the individual needs of older adults belonging to a sexual minority.

研究分野：社会福祉

キーワード：性的マイノリティ 高齢者 特別養護老人ホーム

1. 研究開始当初の背景

性的マイノリティ(ゲイ・レズビアン・バイセクシュアル・トランスジェンダー等)の高齢化に伴う問題については、その実態解明の必要性は指摘されつつも欧米諸国においても十分でなく、とりわけ我が国においては、殆ど解明されていない状況であった。性的マイノリティが長年にわたり差別・偏見の対象となってきたことは明らかではあったが、高齢期において介護・福祉のニーズが生じた際にどのような課題があるのかは明確でなく、必要な介護・福祉サービスの利用をためらう可能性が懸念された。性的マイノリティ高齢者が安心してサービスを利用するためには、介護・福祉サービスの提供者の側が性的マイノリティの人たちへの対応にどのような意識を持っているかを明らかにし、サービス提供者へのアプローチを検討する必要がある。

2. 研究の目的

本研究では、高齢の性的マイノリティが安心して介護・福祉サービスを受けられるようにするために、「性的マイノリティ高齢者が介護・福祉サービスの利用に抱いている不安を明らかにすること」と、「サービス提供者が抱く性的マイノリティに対する意識等を明らかにすること」の2つを目的とした。

3. 研究の方法

研究1「性的マイノリティ高齢者の主観的生活課題」

(1)対象：60歳以上の性的マイノリティ当事者。対象者の募集は性的マイノリティの支援を行っているNPO法人を通じて行い、研究参加の同意が得られた者にインタビューを実施した。インタビューは理論的飽和化が図られたと判断されるまで継続し、最終的な対象者はレズビアン、ゲイ、バイセクシュアルの当事者で合計22名であった。

(2)データ収集の方法：半構造化面接によりデータを収集した。

(3)調査項目：差別・偏見等の経験、利用したい介護・福祉サービスの種類と理由、介護・福祉サービス利用に関しての不安等

(4)分析方法：質的なデータ分析

研究2「当事者へのスタッフ(特別養護老人ホーム)の対応とその関連要因」

(1)目的：サービス提供者の性的マイノリティに対する意識および対応の実態を明らかにする。

(2)対象及び調査票の配布回収：対象は東京都23区内の特別養護老人ホームのスタッフ。施設長の同意を得られた23施設のスタッフに調査票を配布し、郵送にて調査票の返送があった607票を対象とした。

(3)調査方法：事例を用いて質問するピネット法による項目を設定した。介護・福祉分野の専門職は、人権や社会正義に基づいた行動を求められており、調査に対して「差別・偏見」的な言動を避ける表面的な回答がされる可能性があった。その対策として、デリケートなトピックや回答しにくいトピックを扱う際に有効であるピネット法を採用した。

(4)分析方法：統計分析及び質的分析

4. 研究成果

研究1「性的マイノリティ高齢者の主観的生活課題」

性的マイノリティ高齢者の主観的な生活上の課題・不安の構造とその背景について、ライフコ

ース上の経験も含め質的調査に基づき明らかにした結果【否定的な価値観の影響】【頼らない/頼りにくい状況】【心配なく過ごせる場所を求める】【自助・互助で備える】の4つのカテゴリーが抽出された。そこから、差別・偏見の経験が様々な影響を及ぼしてきたことや、支えになる人間関係があると自己否定につながらないこと、自己を律する意識と行動が強調されていること等が明らかになった(図1:性的マイノリティ高齢者が受けた影響と将来に向けた対応・要望)。そして、地域社会でのつながりや安心できるフォーマルサービスの構築等の課題が示唆された。

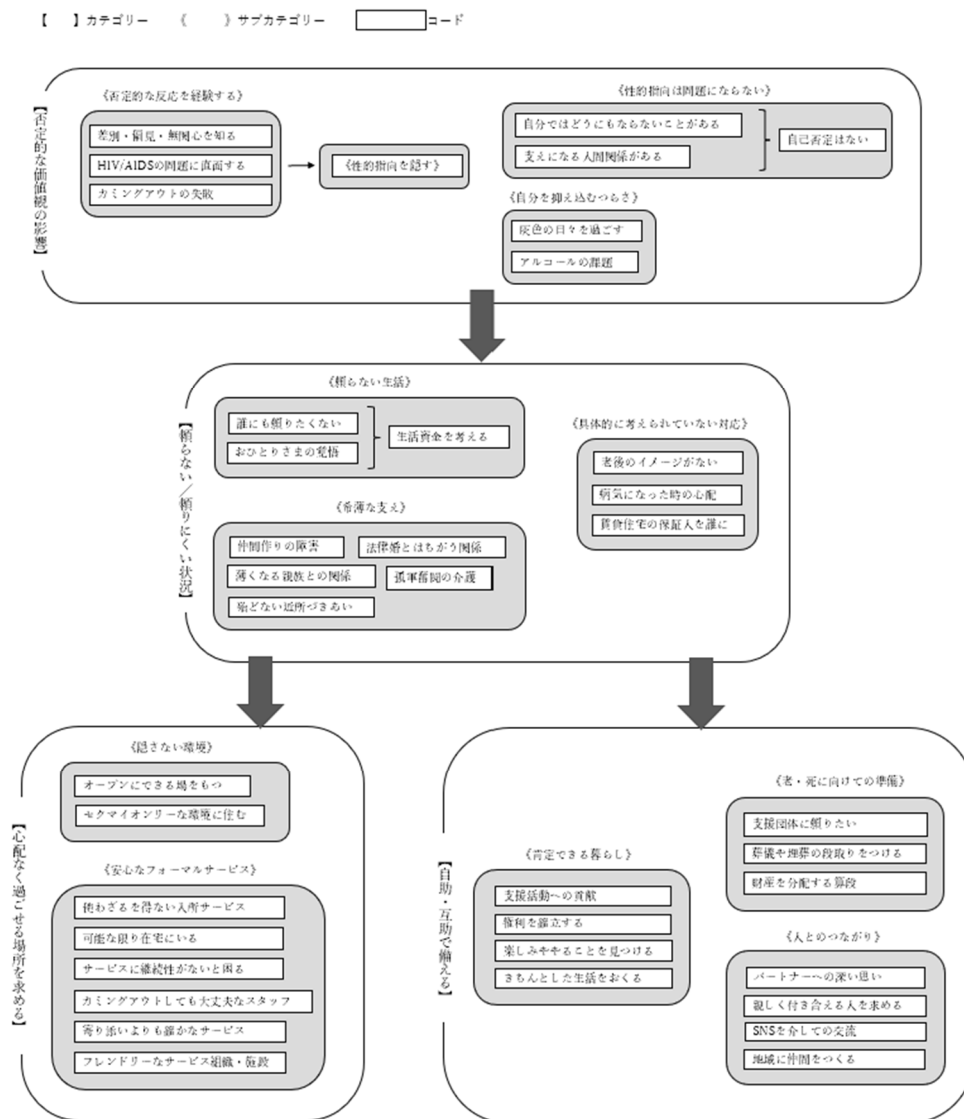


図1：性的マイノリティ高齢者が受けた影響と将来に向けた対応・要望

研究2「当事者へのスタッフ（特別養護老人ホーム）の対応とその関連要因」

重回帰分析を行い、次のような結果が得られた。まずスタッフの対応は積極的な対応と、規制的な対応の二次元であることが明らかになった。そして、各次元に影響を与える要因は、積極的な対応は当事者の要望をどのように認識しているか、規制的な対応は同性愛者に対する不快感、同性愛者に対する態度、当事者の要望の認識が有意に影響していた(表1: Multiple Regression Analysis Results)。これらからは、性的マイノリティ入居者の個々のニーズを理解する能力を開発する必要性が示唆された。

表 1 : Multiple Regression Analysis Results

	Active reaction				Restrictive reaction			
	Pearson coefficient	Standardized coefficient beta	t value	Probability of significance	Pearson coefficient	Standardized coefficient beta	t value	Probability of significance
(Invariable)			2.69	0.07			5.38	0.00
Age	-0.06	-0.01	-0.25	0.81	-0.03	-0.01	-0.36	0.72
Female dummy	-0.00	-0.03	-0.77	0.44	-0.12	-0.04	-1.06	0.29
Heterosexual dummy	0.07	0.03	0.80	0.42	-0.06	-0.03	-0.79	0.43
Attended human rights training	0.12	0.04	1.29	0.20	-0.10	-0.03	-1.11	0.27
Has LGB people in their surroundings	0.08	0.06	1.78	0.08	-0.06	0.05	1.43	0.15
Unpleasant feelings toward gay people	-0.05	-0.02	-0.39	0.70	0.28	0.09	2.53	0.01
Attitude toward gay people	0.11	0.07	1.71	0.09	-0.29	-0.11	-3.67	0.00
Staff recognition of person's wishes: active reaction	0.61	0.60	18.15	0.00				
Staff recognition of person's wishes: restrictive reaction					0.57	0.50	15.27	0.00
Coefficient of determination	0.389 < .001				0.381 < .001			
Adjusted coefficient of determination	0.381				0.381			

さらに、同アンケートの自由記述欄の記載（193 通）を質的に分析した結果、【性的マイノリティ入居者の存在の認識】、【性的マイノリティ入居者への差別偏見に関する意識】、【対人援助の理念に基づく対応姿勢】、【入居の際の現実的な課題】、【性的マイノリティ入居者を受け入れるための準備】の5つのカテゴリーが抽出された（表2：スタッフの自由記述に関するカテゴリーとコード）。多くは性的マイノリティ入居者に対して受容的であり、対応に有用な知識を得たいと考えていた。しかし一部には、固有のニーズに対する理解不足等があることが窺えた。性的マイノリティに関する正確な知識を得て理解を深める機会の必要性が示唆された。

表 2 : スタッフの自由記述に関するカテゴリーとコード

カテゴリー	コード
【性的マイノリティ入居者の存在の認識】	過去も現在も入居者にはいない
	入居してくる時代になる
	対応した経験がある
【性的マイノリティ入居者への差別偏見に関する意識】	差別偏見はない
	自覚されている否定的な意識
	理解不足から生じる偏見
	受容のかけにある警戒心
【対人援助の理念に基づく対応姿勢】	本人の意向に沿う
	人権を尊重する
	他の入居者と変わらない
【入居の際の現実的な課題】	どうしてよいか分からない
	認知機能の低下が問題
	他の入居者との関係
	ハード面での壁
	同性介護の難しさ
	踏み込んでいけないスタッフの意識
【性的マイノリティ入居者を受け入れるための準備】	知識を学ぶ
	施設の対応方針を統一する

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 北島 洋美	4. 巻 41 (1)
2. 論文標題 インフォーマルサポートの構築に関するセクシュアリティの影響 : ゲイ・バイセクシュアル男性高齢者の語りから	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 老年社会科学	6. 最初と最後の頁 60 ~ 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 北島 洋美	4. 巻 16 (1)
2. 論文標題 性的マイノリティ入居者への対応に関する特別養護老人ホームスタッフの意識	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 応用老年学	6. 最初と最後の頁 80 ~ 88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 北島 洋美, 杉澤 秀博	4. 巻 44 (3)
2. 論文標題 性的マイノリティ (LGB) 高齢者の主観的生活課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 老年社会科学	6. 最初と最後の頁 242 ~ 255
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Hiromi Kitajima, Hidehiro Sugisawa	4. 巻 -
2. 論文標題 The Attitudes of Nursing Home Staff Toward Lesbian, Gay, and Bisexual Residents in Tokyo: A Vignette Survey	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Gerontological Social Work	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/01634372.2023.2223244	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 北島洋美
2. 発表標題 自主企画フォーラム「LGBTQ高齢者；日米における支援と実証研究」
3. 学会等名 日本老年社会科学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------